![C:\Users\owner\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\U79SRRP9\MC900228038[1].wmf]()![C:\Users\owner\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\X4LFTNN7\MC900045582[1].wmf]()**評価されるグループホームとは**

　**虹　色　め　が　ね　通　信　年三回発行**

　　一般社団法人　　北海道認知症**グループホーム協会**

**道東ブロック**

**第三十五号　　発行所　　ＧＨ入江　釧路市入江町八の二九**

**北海道認知症グループホーム協会道東ブロック会長　斉藤裕**

　厚生労働省、社会保障審議会介護給付費分科会の「認知症対応型共同生活介護」のあり方に関する調査研究事業の結果報告がなされました。評価される機能・類型として、個別ケアの理念の遵守と適切に運営する事業所（Ａ群）ＡＤＬの重篤化に対応して看取りを実施できる事業所（Ｂ群）とありました。

看取りは随分以前から強調されておりましたが、全国で実施しているのは、まだ20％に過ぎないと言う事でした。釧路市で以前は往診医が一人しかいない状況でしたが、現在は増えていているので、是非皆さんのホームでも実施して頂きたいと思っております。Ａ群の具体的な個別ケアとしては、調理の支援、利用者本人の意思に対応した入浴支援、排泄の随時介助、利用者本人の意向に応じた起床・就寝時間、過ごし方、家族との定期的な懇談会などの実施とありました。Ａ群を全て完璧にやっているホームは少ないと思いますが、改定時に加算の対象となるやもしれませんので、それらを実現出来る様に皆さんのホームでも頑張って頂きたいと思います。

**総会時の斉藤会長**

グループホームの代表として、釧路認知症の家族の会に参加しました。そこで、まず言われたのは、「近くのグループホームに入れました。1週間後に行ったら、完全な車椅子になっていました。もともと歩行不安定でしたが、ひどい」そこのホームの管理者や指導者は自立支援の原則を知らなかったのでしょうか？

また別の人が言うには、あるホームにお母さんと面談に行ったそうです。そこで、「こんなに徘徊が有るならどこの施設でも見てくれるとこなんかない」とはっきりと言われたそうです。「その帰り車に乗せた母と海に飛び込みたい」と思ったそうです。真に残念なことです。自らが認知症対応型共同生活介護を否定して、認知症非対応型共同生活介護になってしまいました。　又、この会からの話ではないですが、「身寄りのない人は入れない」と言ったホーム職員がいたそうです。私なら成年後見人制度を利用しましょうとでも言いたいですね。現在驚くほどの老人ホーム、サービス付き高齢者住宅ができています。そういうところも生き抜く為に、認知症の方も入れる時代になってきています。どうか道東ブロックの会員の皆さん、自分のホームは認知症ケアの専門家がいる、認知症なら任せて下さいと言う矜持と意気込みを持って運営して行きましょう。

　私も65歳を迎えますので、今期で退任いたします。10年の長い間、道東ブロックの役員をさせて頂いてどうも有難うございました。福祉業界には経験が浅く、ご迷惑をかけた事も多々あったと思います。私はこの経験を通して、多くの知識の取得、全国的に有名な多くの介護リーダーと知己となる事ができ感謝しております。今後はＧＨ育成会の板谷会長を盛り上げ、陰ながら協力して行きます。どうか会員の皆様も板谷会長並びに道東ブロックに対して以前と変わらぬご支持、ご協力をお願い致します。

**「北海道認知症グループホーム協会道東ブロック26年度総会」**

5月16日、ワットにおいて北海道認知症グループホーム協会道東ブロック26年度総会が開催されました。

来賓として釧路市役所介護高齢課の古村課長、釧路小規模多機能型居宅介護事業所連絡協議会の大柳副会長をお迎えしまして、実施されました。グループホームも小規模多機能型居宅介護も同じ地域密着型です。これからも共同して釧路市の福祉の担い手として釧路市の地域包括ケアを推進・協力していきたいと思います。****

**挨拶・講話中の古村課長**

尚、今まで会長を務めていた斉藤裕（ＧＨ入江）、

**![C:\Users\owner\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\MVQ6AYDJ\MC900295721[1].wmf]()**

事務局長を務めていた隈井勝利（ＧＨふれ愛）の二名が退任され、次の様な新役員となりました。

会長　　　板谷　俊英（ＧＨ育成会）

副会長　　合林　拓郎（ＧＨ新富士）

事務局長　水谷　裕恵（ＧＨはるとり）

会計　　　梅沢　浩人（ＧＨ桜**ヶ**岡）

研修担当　伊藤　絹恵（ＧＨくつろぎ）

監査　　　中川　善仁（ＧＨひなたぼっこ）

〃　　　　松田　義弘（ＧＨ和の杜）

**![C:\Users\owner\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\75653FP9\MM900295151[1].gif]()**今年度も国よりの補助金により、会員のホーム15社が3グループとなって、釧路と中標津で10以上の研修を計画しております。それとは別に、11月頃に本部から20万円の予算を頂いて、研修を予定しております。

**接遇マナー研修を受けて**

**グループホームくつろぎ　　ホーム長　伊藤絹恵**

****平成２５年１月３０日に生涯学習センターにてマナー研修が開催され、16事業所60名が参加しました。講師の坂井礼子氏は福祉施設を中心に接遇マナーについての講義をされている方で、今までのマナー講習とは違って「スッ」と入って実感しやすいものでした。「接遇」とは相手の立場を先ず考えて大切に行き届いたサービスをすること。「マナー」とは作法のこと。マナー（作法）が出来ても心が伴わなければ相手には届かない。接遇とマナー両方が伴って初めて相手に届くもの。自分は出来ていると思っていても実際にはマナー（作法）しか出来ていなかったのかもしれません。人間としてもちろんですが、特に介護という職に就いている者にとって基礎中の基礎として大切なことを学ぶ機会だったと思います。一人でも多くの介護職員に坂井氏の講義を受けてもらいたいと思いました。

**講演する坂井礼子氏**

**認知症事例検討研修会**

**グループホーム入江2階管理者　福士　一**

平成25年10月26日「まなぼっと」にて、松本一生先生の講演会を受講しました。事例検討会という事で各グループホーム毎に事例を発表し、それについて松本先生より助言を頂けるという形で行われました。先生は認知症に力を入れられている事はご存じの通り、そのうえ医師という観点からのお話、助言はグループホームで認知症ケアを行っている職員にとってはとても分かりやすく共感でき、とても貴重なお時間を頂けたと思いました。

　グループホーム入江としてはレビー小体型認知症の方を看取った時の事例を発表させて頂きました。入所時から息を引き取るまでの間に色々な変化が有るわけですが、スッタフは本人の思いを最大限汲み取り、深く広く考え、その都度皆で話し合いを重ね、ケアの方法を判断しなければなりません。その方が息を引き取った後、「あの時もっとこうしてあげれば…、あの時あれは正しかったのだろうか…」と思った事がありました。それについて先生が優しいオーラで細かく説明して頂き「これで良かったんだな、またこうなったら、ケアに生かす事ができる。」と思った事が沢山有りました。介護職員が医師に色々な事を聞けるという事はとても貴重で良い経験でした。

**佐々木幸子氏による研修**

**![C:\Users\owner\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\G1JFB4QW\MC900445662[1].wmf]()**平成25年10月・11月　26年1月　認知症基礎研修Ⅱ～Ⅳ、平成25年11月　　管理者研修Ⅱ

**基礎研修**

アンケートより・・・

出席者全員が基礎的な知識、技術について学ぶ事ができた。又グループワークでは、普段気付く事ができない事も皆で話し合う事で視点が変わり今までとは違う気付きを得られた。この様な研修を受ける事ができ幸せだった、聞きやすくわかりやすかった。

明日からのよい良いケアに活かすとの感想を頂きました。

**管理者研修**

『上司に求める資質』とは何か？

研修が始まりグループを作る事やシートの準備をする動作等にも管理者として周囲への配慮や気付きはあるか問われた。又、管理者は見ている側のようで最も見られている人。「感じがわるい人」ではいけない！笑顔で！働く人にとっていい環境でなければ良い住まいとは言えない！

管理者は万能ではなくわからない事もある。わからない事をわからないと言える勇気も必要。みんなで話し合えるしくみを作ろう！等、すぐに活かせる素敵なお話を頂きました。　　　　　　　　by 水谷裕恵（ＧＨはるとり）

**グループホーム紹介コーナー**

**グループホーム　ふれ愛の花**

**ホーム長　上西　朱美**

グループホームふれ愛の花は平成22年3月、中島町に開設し今年で5年目を迎えました。有限会社ふれ愛の介護事業所としては、若竹町にあるグループホームふれ愛、デイサービスふれ愛に次いで3番目の事業所

になります。

　ホームの理念「ふれあう真心、あふれる笑顔」のもと、認知症の方が安心して、その人らしく生活ができるよう支援しています。家事が得意だった入居者様は、職員と一緒に洗濯物を干したり、床のモップ掛けをしたり、台所で調理の手伝いをして下さっています。車椅子の方も洗濯物を畳んだり、チラシでゴミ箱を作ったり、ウエス切り等の仕事をされています。そのお陰もあり、ホームに見学に来られた方からよく「床が綺麗ですね」と言われます。

**![C:\Users\owner\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\WU3AUFKA\MC900445644[1].wmf]()**ふれ愛の花ではデイサービスふれ愛に通われていた入居者様も多く、行事等で一緒になった時にはデイサービスの利用者様や職員と懐かしそうに会話をされています。毎年、春になると山花のリフレ農園で、南瓜やトウモロコシ等の野菜を育てておりますが、グループホームふれ愛、デイサービスふれ愛と隣の区画を借りているので、時には手伝ってもらったり、時には「そっちの南瓜の方が大きくなっているよ」とライバルになったりと農作物の栽培を楽しんでおります。

　これからも入居者様が安心して、その人らしく生活できて、笑顔があふれるホームを目指して、日々、努めていきたいと思います。お近くへお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

文責ＧＨ入江斉藤